

埼玉県

ヤオコーファーム (株)ヤオコー 良質な野菜の安定確保に向けたトライアル

● 参入のきっかけ・目的

- ・ 農業従事者の高齢化、世界的な需要増加を考えると、10年後20年後に、今の品質の農産物をスーパーとして提供できるのかという将来の農業に対する危機感が、農業参入を検討するきっかけでした。
- ・ 当初は、良質な野菜を安定的に確保することを目的に、トライアルとして開始しました。
- ・ また、地元の優良な農業者の方々とのネットワークを構築したいとも考えていました。

● 参入地域（土地）を選んだ理由

- ・ 鮮度が良い野菜を提供したいと考え、自社の物流センターがある地域の農地で栽培しています。
- ・ 総面積20.2ha（寄居、熊谷、深谷、狭山）のほとんどを農地中間管理機構を通じて借り受けています。

● 主な販路

- ・ 「今朝採り収穫」を中心に100%ヤオコーへ出荷しています。

● 本業との相乗効果

- ・ ヤオコー店舗で取り扱う野菜の品目が多くなり、独自ブランドとして認知してもらえるようになってきました。



● 自治体等からの支援

- ・ 農地のあっせんは、市町のご担当に対応いただきました。

● 参入して苦勞したこと

- ・ 1 耕作面積が20a弱となっていることや1 か所に集まっていないため、農機具の運搬など、農作業を効率的に行うことが難しくなっています。
- ・ また、従業者を募集しても、なかなか人が集まらないことです。

● 参入した成果

- ・ 独自ブランドとして認知されてきていると感じています。
- ・ また、持続可能な収益性の確保の点から、露地、施設、養液複合の農業経営が実現できてきています。

● 今後の展望

- ・ 地元の生産者とのコミュニティーの形成・拡充や他産地との交流を通じて、技術力の向上、新技術の習得、更なる品ぞろえと逸品の供給量の充実に図っていきたいと考えています。

● 詳しい情報はこちら（会社HP）

»[ヤオコーファーム | サステナビリティ | ヤオコー](#)

★ 概要 ★

農業参入：2016年4月

経営面積：約20.2ha

栽培作物：露地野菜（キャベツ、ブロッコリー、アスパラ、ほうれん草等23品目）

養液栽培（リーフレタス）、施設栽培（いちご）

職 員（農業）：社員10名、パート19名